

日時：2012年9月15日（土） 15時～18時  
会場：済生会新潟第二病院 10階会議室A  
主催：済生会新潟第二病院 眼科

「疫学を基礎とした眼科学の展開」

山下 英俊（山形大学眼科教授、医学部長）

「2型糖尿病の成因と治療戦略」

門脇 孝（東京大学内科教授、日本糖尿病学会理事長）

門脇先生の講演抄録と参加者の感想を報告致します。

「2型糖尿病の成因と治療戦略」

門脇 孝（東京大学医学系研究科糖尿病・代謝内科）

2型糖尿病は、インスリン分泌低下の遺伝的素因のうえに環境要因による肥満・内臓脂肪蓄積、肝臓や筋肉の異所性脂肪蓄積、インスリン抵抗性など、メタボリックシンドロームの病態が加わることによって引き起こされ、細小血管症のみならず心血管疾患の重大なリスクとなる。発症前から膵β細胞の機能低下が認められ、そこにインスリン抵抗性が加わると、インスリン分泌代償的增加が惹起されるが、それが破綻すると糖尿病を発症する。脂肪細胞肥大・内臓脂肪蓄積では、脂肪組織・肝臓で慢性炎症が惹起され、善玉のアディポネクチンが減少して、インスリン抵抗性を引き起こす。糖尿病の治療の目的は健康な人と変わらない寿命と生活の質（QOL）の確保である。しかし、2000年までの糖尿病患者の平均寿命を調査した日本糖尿病学会のデータによると、男性で10歳、女性で13歳も短命となる。糖尿病治療に関しては、大規模研究によりエビデンスが蓄積されてきた。

近年、インスリン抵抗性改善薬、インクレチン関連薬をはじめ、さまざまな作用機序を有する新薬が開発され、低血糖を起こさずに食後を含めた高血糖を是正し、日内変動の少ない良質なHbA1cコントロールを実現することが治療の基本となっている。そのために、個々の患者の病態や進行度、合併症などを勘案し、どの薬剤をどのように組み合わせていくのか、エビデンスに基づきながら医師がしっかりと選択していかなければならない。将来は、アディポネクチン受容体作動薬など、患者の食事制限や運動の負担も軽減しながら、よりよいコントロールを得られるような新薬の開発にも期待が寄せられる

【略歴】 門脇 孝（東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科教授）

1978年 東京大学医学部卒業

1980年 東京大学第三内科

1986-1990年 米国NIH糖尿病部門客員研究員

1990年 東京大学第三内科助手

1996年 東京大学第三内科講師

2001年 東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科助教授

2003年 東京大学大学院医学系研究科糖尿病・代謝内科教授

2005年 東京大学医学部附属病院副院長

2008年 日本糖尿病学会理事長

2011年 東京大学医学部附属病院長

-----  
参加者からの感想をアップします（到着順）。

-----  
内科開業医（新潟県三条市）

-----  
大変有意義な会に参加できて勉強になりました。

三条市でも眼科の先生方と一緒に糖尿病に関して一緒に行動が出来れば嬉しいなど思  
いながら聴講していました。

-----  
眼科大学勤務（東京 大学教授）

-----  
素晴らしい講演を拝聴することができ本当に勉強になりました。医局員にも還元でき  
るように意識いたします。

-----  
内科勤務医（新潟市）

-----  
素晴らしい会でしたね。山下先生は、広い視野で医療を考えてくださる素晴らしい先  
生でした。

門脇先生のご講演はとても広くて、恩師から若い人までにまで配慮が行き届いてい  
て、基礎から戦略まで展望されていました。厚生省を動かす力の源を感じました。

（原子力の専門家にこういう方が見当たらない様に思えるのに不安を感じます  
が、、、。）

講演・質疑全体に、とても前向きで、しかも力を出し合ってやってゆこうという暖か  
い雰囲気満ちていたと思います。製薬会社のバックアップを受けない会の素晴らし  
さを感じます。安藤先生の運営・人選もとっても素晴らしいですね。これまで大変な  
ご努力だったと思いますが、済生会病院のスタッフの方のバックアップも会毎に広  
がっている印象です。

-----  
眼科開業医（東京都）

「学問のすすめ」に参加させて頂いて良かったと、帰京してからもしみじみ思っております。案に違わず大変興味深い内容で、あっという間の60分という感じでした。息子も、内容はとても理解できていないと思いますが、何か感じ取ってくれたのではないかと考えております。この講演は日眼のメインホールでやるべき内容だったのではないかと、そして、もっともっと多くの、若いドクターに聞いて頂きたかった、と思いました。

今回は、両先生のお仕事の内容よりも、どういうきっかけからどう取り組まれたのかというその一連のプロセスと、その仕事に対しての姿勢について伺えるのではないかと、ということを楽しみに出掛けました。仕事の関係で大幅に遅刻をしてしまいましたので、山下教授の話の前半を聴くことができず、疫学に対する先生の考えを伺えなかったのは大変残念でしたが、上記の観点からいけば、私が伺えた範囲では両先生ともに殆ど同様のことを仰っていたことが大変印象に残りました。

いわく、優れたメンターに出会うこと、研究には真から真面目に取り組むこと、この2点に尽きたように思いました。

メンターとの出会いは「運」が支配しているのかも知れませんが、誰をメンターとするかは自分に決定権がありますので、運命ばかりではないように思います。やはり、その時点で自分なりに共感できる点を多く持っている師を見つけることに才能を発揮することが肝要だと感じました。

真面目に取り組むこと。これは、ごく当然であります。その真面目さに凡非凡があるのかなと思いました。よく、医学は科学ではないなどと言われますが、こと研究に対しては、十分に科学して突き詰める必要があります。ヒトは勝手に時間を限って動こうとしますが、科学の前では心してそうした要素を排除し、真に取り組むことが学問を進展させるのだ、と改めて思いました。

そうして、臨床家なら、そのような取り組みをする大元には、疾患、その疾患を持った患者がいるわけで、そこに研究の成果を持って行くという目標を見失わず、努力を続ける。いやはや、頭が下がる思いです。

実は、両先生の話をお伺いながら、かつての自分を思い出しました。

私は北里大眼科で育ちましたので、神経眼科の分野で、電気生理を手法に研究を致しました。石川教授の命で大学院に進みましたので、時間はかなり頂戴できましたが、4年という枠がありましたので、修了前の頃は尻に火がつく状態でした。外来終了後即実験棟に向かい、仮眠を取って一連の実験、データの整理、それこそある時期土日なしでやっていました。こうしたことは誰でもやって来たことと思いますが、得られた結果をどう読み、どう扱うか。そのあたりに人間力の差が出るのかな、などと考えてしまいました。

様々なシーンがフラッシュバックして頭に浮かび、本当に、改めていろいろと考えさせられました。

本当にすばらしい企画だったと思います。どうか、多くの若いドクターに聞いて頂けるよう、日眼で再現して頂きたいと思います。いや、WOC 2014で、世界の名だたる教授も巻き込んで、「学問のすすめ」をやられたら如何でしょうか。

それほど、私は感銘を受けました。

医学部学生（東京 医学部 2年）

---

この度は貴重な講演を聴かせて頂き有り難うございました。

今私は、〇〇大学の2年生なのですが、〇〇大学では1年のうちから生化学、代謝生化学、や分子生物学が始まります。大学で基礎科目の授業を受けていて人体に関する話をしているということは分かるのですが、今やっている基礎科目がどのように将来のことに結びつくのかや、基礎科目同士でのつながりというものが見えてこず、全体的にとっかかりづらいついて思っていました。ですが、今回の講演を聴かせて頂いて内容こそはあまり理解できませんでしたが、こんな風にしてつながっていくのかと自分なりに分かったような気がして、基礎科目に対するモチベーションがあがり非常に有意義な時間であったと思えました。

また、門脇先生が仰られていた、「失敗を無視しない」、「正しい観察・実験をする」という話を聞いた時に、大学での実習のこと思い出しました。実習で、あるグラフを作成している時に2つほど線から大きく外れてしまっていてrの値が小さくなってしまい大きく外れた数値だけ計測し直して線の上に乗せるようなことを、特に何も思わずに行っていたことがありました。が、この話を聞いてデータの操作の怖さとともに、第一線で研究をするためにはこのようなことも意識して臨まなくてはならないことに改めて気付くことが出来ました。また、大学生の間にこのような大事なことに気付くことが出来て、とても得したように思いました。私の大学では2年生の後期は実習が目白押しになっているので、これらのことに注意しながら真摯に実習を行っていこうと思います。

今回の講演で、将来仕事・学問を行っていく上で重要なことを聴くことができ、短い時間でしたがとても有意義で、とても良い人生経験になりました。今回の講演に誘って頂き本当に有り難うございました。

看護師（新潟市 病院）

---

このたびは、大変貴重な会に参加させて頂いたと感謝しております。ありがとうございました。両先生とも、御高名な先生ですので、新潟でお話を聴く機会はないと思っております。恵まれた環境で仕事していることに感謝し、いつも糖尿病看護における網膜症の患者さんへの看護が追いついてないなと感じつつ、組織の中でうまく動けていない自分を反省しているところです。

講演については、研究と治療についての壮大なお話で、コメディカルは医師の足元にも及ばないとは思いますが、コメディカルの立場から、日頃の実践を学会等で発表して形にしていくことが必要だと思えました。特に看護師の役割は、医師の診療の補助とともに、患者さんの生活支援という役割があります。私達看護師は、疾患を抱えながら「生活する患者」に一番寄り添えるはずですので、先生にも看護師の役割と力を見せつけてやる一、つて気持ちで頑張ります。

今後ともよろしくお願ひします。

治験コーディネーター（新潟市）

---

貴重な機会をありがとうございました。

門脇先生のご講演を糖尿病学会等で勉強させていただく機会はありましたが、雲の上の先生方の講演をあのような近い距離で拝聴でき、前を向いて進み続ける姿勢、医療に対する思いに感動いたしました。

山下/門脇亮先生の講演から疾患、病態の内容も勉強させていただきましたが

- ・【原因】が不明でも【疫学】を解析することで、病気を治すことができる
- ・【好奇心】【疑問の思うこと】から医療が進歩する
- ・研究者として結果を受け止める誠実・真摯な気持ちが大切である

いくつになっても勉強し続けるお二人の姿勢が素敵でした。

臨床研究に携わるCRCとし微力ですが、謙虚にお手伝いできるよう勉強して行こうと改めて心に誓う一日となりました。

外部者であり、基礎知識も少なく、参加させていただくことに少し迷っておりましたが、勇気をだし参加させていただき本当に良かったです。

ありがとうございました。

内科 大学勤務医（新潟大学）

---

今回は大変すばらしい講演会をご企画頂き、医局員を代表して深謝致します。

山下先生にはお人柄が伝わって来るようなすばらしいご講演を頂きました。門脇先生は、普段、製薬会社の講演会等でお聞きする内容と異なり、我々若者に対する熱いメッセージが伝わって来る、貴重なご講演でした。曾根先生も、新潟にはこのような大先生が講演に来られるのかと驚いていたようでした。

新潟の内分泌代謝は、大きな転換期を迎えました。先生には今後も引き続き新潟の内分泌代謝を暖かくご指導頂けますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

眼科 大学勤務医（関西 大学眼科准教授）

---

山下先生、門脇先生の素晴らしい講演を伺うことは、まさしく日常でもすれば忘れがちになる何かを刺激して発奮することを思い起こすようなインパクトがありました。こんな素敵な会を行なう先生を尊敬し感謝します。ありがとうございました、また福田先生も綺麗な瞳のご子息と参加されてこちらは羨ましいです。これからもよろしく申し上げます。

産婦人科医（新潟市 開業）

---

気さくな両先生のお人柄にも感激しました。

糖尿病関係や魚沼基幹病院の件で、門脇先生のお名前は知っていましたが、鉄門陸上

部とは知りませんでした。何かの折に、今回の出会いが役立ちそうな気がします。

眼科 大学勤務（東京 大学准教授）

---

お二方の心に残る講演が聞けて、充実した時間が過ごせました。以下、簡単ですが、感想まで。

山下先生 インTRODクシヨンのところで話された「疫学研究をすることによって原因が解明される前に有効な治療ができる。」という言葉が印象的でした。医学の中にはなかなか学問的にその機序や病態がすべて解明されていないものも多くある一方、目の前の患者さんには何か治療をしなければいけないという時に、役立つ考え方だと思いました。ただし、疫学研究にはバイアスが入らないようにおこなうことの難しさも先生の話から感じ取れました。

もうひとつは「健康寿命」という言葉の使い方が、特に糖尿病患者には重要に感じられました。すなわち、寿命が長くなっても**Quality**の保たれた寿命というものが必要であり、そのための糖尿病合併症予防の位置づけを明確にされていると思われました。

門脇先生 各々の研究成果に圧倒されましたが、そのなかでも最後のスライドに述べられた「研究メンター」「研究業績、学説」「人材養成、次世代メンター」の三つの関係について話されたことが最も印象に残りました。その他に、我々が研究を行う意義というのが、「真理へのらせん的接近」であることが具体的に示され、研究における誤った解釈やねつ造がどんなに無意味なものであることが理解できた気がしました。多くの症例（研究結果）から得られた生のデータというものを大事にして、虚心坦懐に解釈することの重要性が真理への追及に繋がることの説明が大変わかりやすく感じました。

臨床検査技師（新潟市 病院臨床検査科）

---

素晴らしい、研修会に感激し、お礼を申し上げたく突然でしたが、メールを差し上げております。

先生の「学問のすすめ」に込められた、研究とはどうあるべきか、臨床とはどうあるべきかを学ばせていただきました。ご講演をしてくださった先生方のお話にも、これらが盛り込まれており、研究とはこうあるべき姿だと感激いたしました。

私も学生を指導したり、研修会を企画したりしておりますが、いつも「どうせ、質問は出ないから5～10分でいいよ」などどプログラムを作成していました。今回の30分の質疑時間は驚きでしたが、それに値する先生方の姿勢を学ぶことができました。すべてに、大変感激した勉強会でした。この経験を今の仕事に、そして後進の指導にあてたいと思っております。

今回は、大変ありがとうございました。

臨床検査技師（新潟市 成人病検診センター）

-----  
わたしは臨床検査技師で人間ドックなどの健診の分野で医療に従事しています。超音波の検査をしているときに感じていることがあります。・・・糖尿病の重症の人が脂肪肝になると非常に超音波が減衰します。なぜか？肝機能も脂質も異常が無いのに血糖値やHbA1cが少し高いだけで脂肪肝があることがよくあります。脂肪肝と糖尿病は非常に強く関連しているのではないかと思っていたので糖尿病のことを勉強したくて参加させていただきました。お二人とも最先端の分野でわからないことを研究していく、努力と情熱、最後に人材の育成が大切だとおっしゃっていたことが印象的でした。この度は、このようなすばらしい会に参加させていただきまして本当にありがとうございました。

薬剤師（新潟県 病院）

-----  
このたびは、「学問のすすめ」第8回講演会に参加させていただき、大変ありがとうございました。先生が企画されてきた勉強会については、以前参加した方から噂でお聞きしたことがあり、大変興味深く思っておりました。このたび〇〇院長を通じてお誘いいただき、院内にも声がかかったわけですが、講演をしていただく先生方のお名前をみて「え？」と驚きました。決して若くはない私ですが、参加しない手はないと即決で申し込ませていただきました。（取りまとめの手違いで申し込みが直前になってしまいご迷惑をおかけしましたが・・・）さて、参加させていただいた感想を僭越ではございますが、書かせていただきます。糖尿病と眼科の関連性の強さは言うまでもないにしても、これほどに共同して取り組まれていることに感銘を覚えました。眼科の先生は眼球から全身を覗き込んでいるようなバーチャル映像さえ浮かんできました。また、門脇先生の後半に出てきたアディポネクチン受容体作動薬という「寿命延長薬」のお話もそう遠い話ではないとお聞きし、薬剤師として光を見た感じでした。そして何より、質疑応答でかわされたディスカッションは他の講演会では感じられない親近感があり、全然部外者の私がまるで部外者じゃないかのような錯覚にさえ陥りました。これもきっと安藤先生のお人柄、人脈の強さ、そして芯からみんなに勉強してほしいという心の表れなのでしょうね？私は3月まで〇〇病院の医療安全管理室で専ら「医療安全」の仕事をしてきました。一生懸命専門領域として診ていることがちょっとした連携のまずさでプラスになるものがマイナスになったりすることがあります。今回、復券の返し方についても触れられていましたが、患者さんの利益になる広がりをもった復券が交わされるといいのにといつも思っておりました。今回はいろんなことを考えさせられる機会となりましたこと本当に感謝いたします。

研修医（新潟市 病院）

-----

この間の「学問のすすめ」は本当に参加させていただきよかったです。全国的に有名な先生方の生の講演を聞くことができ、本当に最高でした。  
講演会で、糖尿病・代謝内分泌に進もうという気持ちがさらに強まりました。門脇先生に質問するチャンスも与えていただきまことにありがとうございました。

神経病理医（新潟大学名誉教授）

-----  
大学が企画できなかつたような素晴らしい講演会を開催され、出席させて戴けたこと、心からの敬意と感謝を捧げます。ありがとうございました。  
もう少しDMに教養があれば、もっともっと深く感動出来たであらうと思いますが、若い人々、その道の人々が感動してくれたでしょうから、先生も満足されたことと思います。写真も、本当に良い、貴重な思い出です！ありがとうございました！

以下、署名です

\*勤務先\*\*\*\*\*

950-1104 新潟市西区寺地280-7

済生会新潟第二病院眼科

安藤 伸朗 Noburo Ando,MD

phone 025-233-6161

Fax 025-233-6220

e-mail [gankando@sweet.ocn.ne.jp](mailto:gankando@sweet.ocn.ne.jp)

<http://www.ngt.saiseikai.or.jp/>

\*\*\*\*\*